



## 就任のご挨拶

昭和大学藤が丘病院 脳神経外科教授 寺田 友昭

この度、昭和大学藤が丘病院脳神経外科に勤務することになりました寺田友昭です。脳神経外科の中で専門は脳血管障害に対する血管内治療、外科治療ですが、脳神経外科領域の手術はすべて行います。



私は1980年に和歌山県立医科大学を卒業し、脳神経外科(駒井則彦教授)に入局、翌年より約2年間国立循環器病センター(菊池晴彦部長)で脳循環、脳血管外科手術、脳神経血管内治療のトレーニングを受けた後、1992年に脳神経血管内治療分野における世界のバイオニアである米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校神経放射線科 Grant Hieshima 教授の下で1年間研鑽を積み帰国しました。和歌山県立医科大学で講師、助教授を務め、2005年より和歌山労災病院脳神経外科部長、脳神経血管内治療センター長として勤務しました。本年9月1日より、脳神経血管内治療専門医3名を含めた4名が昭和大学藤が丘病院脳神経外科に加わることになりました。

脳腫瘍、脊髄、脊椎、小児を含めたすべての脳神経外科疾患に対応いたしますが、専門は脳血管障害で、特に脳神経血管内治療に関しては現在まで約2600例を経験しており、すべての脳血管障害に対応いたします。最近では、特に難易度の高い脳動脈瘤、脳動静脈奇形、硬膜動静脈シャント、内頸動脈狭窄症、慢性期内頸動脈閉塞症、血管豊富な手術高難易度の腫瘍、急性期血管再開通療法などを中心に治療を行っています。

現在、脳神経センターでは、日本脳神経血管内治療学会認定指導医1名、専門医3名を含めた脳神経外科スタッフ10名、神経内科スタッフ7名の計17名が、365日24時間体制で治療に当たっております。今後3年以内に藤が丘病院の脳神経センターが“脳血管障害なら藤が丘病院へ行け”といわれるような、横浜No.1の施設になれるよう頑張るつもりです。御支援のほどよろしくお願い申し上げます。

## 勤務地が異動となりました

昭和大学病院頭頸部腫瘍センター  
昭和大学歯学部口腔外科学講座口腔腫瘍外科学部門教授  
嶋根 俊和

平成17年4月に昭和大学藤が丘病院耳鼻咽喉科に赴任し、平成25年4月からは同科の医長を務めておりましたが、このたび昭和大学病院に頭頸部腫瘍センターが新設されたのにもない、勤務地が異動となりました。さらに、昭和大学歯学部口腔外科学講座口腔腫瘍外科部門の教授を拝命し、頭頸部腫瘍の診療を歯科口腔外科医師と耳鼻咽喉科医師の合同チームで行うこと

になりました。

特に頭頸部には聴覚、嗅覚、味覚などの感覚器や呼吸や嚥下、そして頭部、顔面の形態に係る臓器があります。頭頸部腫瘍の治療ではこの機能に障害が出る可能性があり専門的に治療を行う必要があります。当センターの特徴は、頭頸部癌専門の耳鼻咽喉科医と口腔癌専門の歯科口腔外科医のタイアップにより耳鼻咽喉科医師だけの治療と歯科口腔外科医師だけの治療の欠点を補い安全で確実な医療を提供できることです。



対象疾患は口腔、喉頭、咽頭、鼻副鼻腔、甲状腺、頸部に発生する腫瘍で悪性腫瘍だけではなく良性腫瘍の診療、手術も行っています。治療には手術だけではなく化学療法、分子標的薬、放射線療法を組み合わせ臓器、機能の温存をめざしていきます。

医学部と歯学部そして耳鼻咽喉科医師と歯科口腔外科医師との合同、そして新しいセンターの立ち上げですのでゼロからのスタートと考えております。しかし、昭和大学藤が丘病院で培ってきた技術、知識、他科との連携、他職種との連携を基礎に頑張りたいと思っています。

昭和大学藤が丘病院耳鼻咽喉科と同様、昭和大学頭頸部腫瘍センターをどうぞよろしくお願い申し上げます。

## リハビリテーション病院 スポーツ健康外来の紹介

本年4月より藤が丘リハビリテーション病院においてスポーツ健康外来が開設されました。トップアスリートから学生スポーツ、スポーツ愛好家はもちろん、日常生活での健康寿命や疾病予防のために運動を行っている方も対象に、『スポーツ・運動』と、『健康』をキーワードとした医療を提供するのが目的です。

現在、整形外科部門では肩肘関節診と膝関節診を、内科部門では健康スポーツ診と心肺リハ・運動療法診を行っています。

肩肘関節診担当 整形外科 西中 直也

現在、筒井教授、上原助教と西中で担当しています。主な対象疾患には、野球を中心とした投球肩肘障害、テニスやゴルフを中心とした肘内外側上顆炎、様々なスポーツで弊害になる肩関節脱臼、中高年スポーツ愛好家を中心とした肩腱板断裂などがあります。小学生から80歳を超える幅広い年齢層のスポーツを愛する患者さんに適切な診断、治療法の選択を提供出来るように心がけています。これには、様々な分野のメ

ディカルスタッフとの協力が不可欠で、例えば投球障害肩で手術になるのは、ほんの数%のみです。後は、理学療法士とのコラボレーションにより復活してもらうことがほとんどです。また、日本唯一の医系総合大学の特色を生かし、“オール昭和”として機能することが目標です。プロ野球選手のメディカルチェックでは、今年から整形外科領域に歯科検診が加わるようになりました。スポーツに携わる全ての患者さんに、昭和大学に携わる全ての分野を互いにリンクさせていくことで最高の医療を提供できるようにしていきたいと思っています。



理学療法士による野球肘選手の競技復帰へ向けての機能訓練

**膝関節診担当 整形外科 高木 博**

膝関節診では、主に膝関節のスポーツ外傷および障害、下肢の筋肉の損傷や障害、また健康スポーツ愛好家の変形性膝関節症に対する加療を行っています。すべての分野において理学療法士との協力のもと、運動療法や必要であれば足底板を用いて治療しています。代表的なスポーツ外傷である膝前十字靭帯損傷は、若年の学生スポーツから、アスリート、さらに中高年のスポーツ愛好家まで、幅広い年齢層で発生します。この靭帯損傷は、スポーツ活動への復帰のためには手術加療が必要となる場合が多く、また受傷から手術までのリハビリテーションと、手術からスポーツ復帰までのリハビリテーションが不可欠です。受傷から手術まで1か月程度、手術からスポーツ復帰まで半年程度の、専門知識を要する細やかなリハビリテーションを行うことのできる体制が、スポーツ健康外来の開設よりさらに充実すると考えています。将来的には、昭和大学の特徴である医歯薬を中心とした各学部の連携を生かして、スポーツ選手の治療が行える施設へと発展する事を願っています。



理学療法士による膝前十字靭帯再建後の筋力測定

**心肺リハ・運動療法診担当 内科 磯 良崇**

“スポーツ”と言うと整形外科が主流な印象ですが、リハビリ病院“スポーツ健康”外来では我々内科医も一翼を担い、『内科治療としての運動療法』、『競技者・運動愛好家の身体マネジメント』、『高齢者・障害者の健康増進』という3つのテーマのもと診療に取り組んでいます。現在は、主に循環器疾患を対象に2次予防のための心肺リハ(心肺リハ・運動療法)や、日体大との連携による学生競技者の心臓メディカルチェック(健康スポーツ診)などを実施しています。運動指導に関しては心肺運動負荷試験(通称 CPX)による具体的な運動処方を用いて行っております。

リハビリ病院内科は循環器だけでなく呼吸器・腎臓・内分泌代謝・脳神経の各専門医を擁しており、“身体活動”という視座からの総合内科的アプローチが可能と考えます。今後はこれを活かし、運動療法を主体とする内部障害リハビリ全般を更に充実させるとともに、スポーツ内科学と言う新しい分野の確立にも尽力したいと考えます。また、栄養や睡眠に関わる病気にも対象を拡げ“健康”をトータルに扱う特色ある診療を目指したいと思っております。

今後も各科・各部門との連携により地域医療に貢献し、自分達の診療および研究を発信できるよう努めていく所存です。皆様のご協力ならびに叱咤激励をお願いできればと思います。



心肺運動負荷試験

**休憩室でリフレッシュ**

**藤が丘病院休憩室の紹介**

藤が丘病院はかつて、複数の箇所に休憩室が設置されていましたが、診療スペースの拡充を目的に、それぞれ想定される利用者の利便性を考慮し、地下1階に職員休憩室、3階手術室にスタッフ控室、B棟7階にラウンジと3ヶ所に休憩室を集約いたしました。



地下1階職員休憩室



3階スタッフ控室

休憩室はすべて24時間利用可能で、テレビ、自動販売機、電子レンジ等が設置され、

“ゆっくりとくつろげるスペース”となっております。

食事に、休憩に、歓談にと、多くの方にご利用いただければ幸いです。



B棟7階ラウンジ

## 私たちはチーム医療を推進します

藤が丘病院透析センター看護係長 松本 百合子

透析センターは、腎臓内科医師・看護師・臨床工学技士で構成された医療チームで透析療法を実施しています。治療方法は急性・慢性腎不全を対象とした血液透析法(HD)から腹膜透析(CAPD)、血液透析濾過法が中心です。近年では、救命救急領域など、循環動態の不安定なリスクの高い事例においても、積極的に血液浄化法が実施されています。

2012年の都道府県別の統計では、神奈川県は透析患者数は18,881名と全国第3位であり、透析患者の多い県となりました。当センターは、急性期医療における役割を果たすために、入院患者の透析導入期を中心とした治療を行い、維持期には近隣の透析クリニックを紹介をさせていただいております。また、重症症例や対応困難な事例の受け入れを図ることで、地域と連携しています。

私たちは、透析患者のQOLに合わせたケアの実施に向けて、透析センタースタッフが一丸となり、最善を尽くしたいと考えています。



## 【院内サークル巡り10】

## 襷を繋ぐ、RUN友の輪

RUN友♡(ラントモラブ)

私達のサークルは「藤が丘駅伝サークル」として発足しました。毎年10月に多摩川の河川敷で行われる「河原駅伝」に参加しています。この駅伝は、42.195キロを6人でタスキを繋ぐものです。最初は1チームだけの参加でしたが、翌年からは2チームが参加できるほどメンバーが増えたのを機に、サークル名を「RUN友♡(ラントモラブ)」と変更しました。メンバーは旗の台および藤が丘病院の放射線科スタッフ(医師・看護師・診療放射線技師)を主体とし、消化器内科医や循環器内科医、臨床工学士、事務が参加している多職種チームです。昭和大学以外からも駅伝メンバーが参加しています。

駅伝を通して職種間のコミュニケーションの大切さ、一つのことに対して皆で協力して達成することの楽しさを実感しています。各々忙しい中、時間を作り、大会に向けて練習しています。今後



もRUN友の輪を広げたいと思っていますので、少しでも興味がある方は気軽に声を掛けください。お待ちしております!!

(藤が丘病院放射線科看護師 川崎 由紀乃)

## 支えあえる病棟です!

藤が丘リハビリテーション病院2階病棟係長 松本 恵里香

リハビリテーション病院2階病棟は手術後や、さまざまな急性期治療後症状が安定し、在宅復帰・社会復帰のためのリハビリテーションが必要な患者さんが入院されています。60床の病棟内はそれぞれのペースで訓練に取り組みながら、患者さん同士が励ましあう明るい笑顔と声で活気にあふれています。再びその人らしい生活が実現できるよう、病気や障害を持ちながらもその人らしく生きることが出来るよう、医師・看護師・リハビリテーションスタッフ・ソーシャルワーカー・薬剤師などの多職種チームが、協働と連携で退院後の生活を考慮した支援をしています。

私たちは患者さんご家族の思いに耳を傾け、心の支えになることを大切にしています。入院生活が苦痛にならないよう、また不安なく退院を迎えられるよう、患者さんのために何をすべきかを考えて看護しています。地域の方々へ愛され信頼され、何かあったらリハビリテーション病院2階病棟の看護師に看てもらいたい!そんな病棟を目指し、力を尽くしてまいります。



## 【院内サークル巡り11】

## 心と身体のリフレッシュ

温泉&銭湯同好会

当サークルは、藤が丘病院の消化器センターのスタッフを中心とした温泉好きな仲間達で2013年に結成されました。サークルメンバーは現在30名を超えており、医師・看護師・薬剤師・事務員・・・と幅広い構成になっております。主に秋から冬、春先まで活動しております。夏の疲れや業務多忙による精神的ストレス・身体の疲労を温泉&スパで取り除きましょう!

先日、宮前平にある『湯けむりの庄』に行ってきました。この温泉は源泉からの天然温泉です。特に炭酸琥珀湯は、湯けむりの庄に湧き出た天然温泉に、医療分野でも活用されている「中空糸膜」を通して炭酸ガスを溶かしこんだもので日本初だそうです。

皆さんのおすすめなどあれば教えてください、是非皆で出かけましょう!仕事帰りに気軽にふらっと・・・

温泉好きな仲間を募集しております。

(消化器・一般外科 梅本 岳宏)



## 祝！ 消防操法技術訓練会で最優秀賞受賞

藤が丘病院女子自衛消防隊

9月29日(月)、平成26年度青葉区自衛消防隊消防操法技術訓練会が青葉自動車学校にて行われました。この訓練会は各事業所の自衛消防隊の技量を競うので、藤が丘病院からは多職種混合の女性チーム(写真左より放射線室 宗岡、事務部 山口、看護部 星・齋藤、臨床病理検査室 大柴)が屋内消火栓操法Ⅰの部に出場しました。安全迅速な消火栓の使用手順を遵守するよう訓練を重ねた結果、訓練会では見事最優秀賞を収め、10月24日(金)に開催される横浜市大会へ進むことになりました。



たね。秋と言えば、さつまいも、栗、柿、ぶどう、さんま……おいしいものが目白押しで、ついつい食べ過ぎてしまう人も多いのではないですか？

今回は、数ある秋の味覚の中でも、きのこについてお話します。きのこ類は低カロリーで食物繊維を豊富に含んでおり、カロリーを抑えたい時やおなかの調子を整えたい時に積極的に摂りたい食品です。また、きのこ類にはうま味成分であるグアニル酸やグルタミン酸が多く含まれているものがあり、お料理に使うとその味をランクアップしてくれます。そんなきのこの魅力がぎゅっと詰まった、簡単にできる炊き込みごはんを紹介します。

### 【材料(3~4人分)】

米 2合、 しいたけ 2枚、 しめじ 1/2パック、  
 まいたけ 1/2パック、 油揚げ 1/2枚、 にんじん 40g、  
 塩 小さじ1/3、 みつば(飾り用) 適量

\* 合わせ調味料

だし汁 400cc(水加減で調節)、  
 薄口醤油 大さじ1と1/3、 みりん 大さじ1と1/3

### 【作り方】

\* 下準備: 米は研ぎ、吸水させたあと水を切る。

- ①きのこ類は石つきをとる。しいたけは厚さ2~3mm程度に切り、しめじとまいたけは手で適当な大きさに裂く。
- ②にんじんは長さ3~4cm程度の細切りにし、しっかり水洗いをして臭みをとる。油揚げは短冊切りにする。
- ③フライパンに①、②を入れ、塩小さじ1/3を加え炒める(油揚げを湯通しせず使えば炒め油は不要)。軽く焦げ目がつくくらいまで炒め、うまみをとじこめる。
- ④炊飯器に米、薄口醤油、みりんを入れたあと、だし汁で水加減を調整し平にならす。
- ⑤③を④の上のにのせ、米を炊く。この時、米と具は混ぜない。
- ⑥炊き上がったたらさっくり混ぜ合わせ、茶碗に盛りみつばを飾ってできあがり。
- ◎お好みで鶏肉などを入れて炊いてもおいしいです。
- ◎エリンギ、えのきなどを加えても◎。お好きなきのこで作ってください。

(藤が丘病院栄養科 星川 麻美)

## 美味しいお話し第5回

### 秋の味覚、きのこの魅力



暑さもすっかり落ち着いて、風も日差しも秋を感じるようになります。

## 診療統計

2014年8月・9月

|       | 藤が丘病院             |                   | リハビリテーション病院     |                 |
|-------|-------------------|-------------------|-----------------|-----------------|
|       | 2014年8月           | 2014年9月           | 2014年8月         | 2014年9月         |
| 外来患者数 | 29,209人 (1123.4人) | 29,185人 (1216.0人) | 4,897人 (188.3人) | 5,177人 (215.7人) |
| 入院患者数 | 15,165人 (489.2人)  | 13,929人 (464.3人)  | 4,975人 (160.5人) | 4,866人 (162.2人) |
| 紹介率   | 81.3%             | 81.2%             | 50.0%           | 54.2%           |
| 逆紹介率  | 59.3%             | 50.9%             | 41.3%           | 43.9%           |

### 《編集委員》

|       |        |        |       |       |        |
|-------|--------|--------|-------|-------|--------|
| 高橋 寛  | 佐々木 春明 | 水間 正澄  | 小岩 文彦 | 高橋 良昌 | 小宅 育代  |
| 大塚 幸彦 | 吉原 利栄  | 辻本 さなえ | 佐藤 優子 | 松尾 悠  | 飯田 八代枝 |
| 出川 美幸 | 高橋 良治  | (順不同)  |       |       |        |